

1月放送総局長定例記者会見要旨

(1) 東京2020オリンピック 地上波の主な中継予定種目について (木田放送総局長)

東京2020オリンピックの開幕まで、いよいよ半年余りとなった。NHKでは、日本選手の活躍と世界のトップアスリートのプレーを、最高水準の放送・サービスで余すところなくお伝えする。NHKが地上波での中継を予定しているオリンピックの種目について、主なものをご紹介します。

7月24日には、世界中の注目が集まる開会式の模様を中継する。

日本期待の競技では、26日、競泳「男子400メートル個人メドレー決勝」をお伝えする。去年の世界選手権で優勝した瀬戸大也選手が金メダルを目指す。

柔道は27日、「男子73キロ級決勝」。リオデジャネイロ大会金メダルの大野将平選手にオリンピック連覇の期待がかかる。

陸上では8月2日、「男子100メートル準決勝・決勝」をお伝えする。9秒97の日本記録を持つサニブラウン選手をはじめ、日本選手の活躍に期待が集まる。

さらに男女ともに活躍が期待される卓球は、男子シングルス、男女の団体、3種目の決勝をお伝えする予定。

また、東京大会から採用された新種目では、スケートボード「男女ストリート決勝」「女子パーク決勝」、スポーツクライミング「男子決勝」などをお伝えする。

このほか、バドミントン「女子ダブルス」の決勝や野球の決勝、それに男子のマラソン、閉会式などもお伝えする。

NHKでは、BS1やBS4K、BS8K、ラジオでも数多くの競技を中継する予定だ。具体的な放送計画については、決まり次第お伝えする。

また、パラリンピックについても、これまで以上に力を入れてお伝えする予定。こちらも具体的な放送計画については、決まり次第お伝えする。

(詳細は報道資料を参照)

(2) 東日本大震災関連番組

NHKスペシャル「40人の死は問いかける～大槌町“役場被災”9年目の真実～」

(木田放送総局長)

東日本大震災からことし3月で9年になる。NHKでは、ことしも被災地の課題などをニュースやさまざまな番組で集中してお伝えする。

このうち、NHKスペシャルでは、3月8日に「40人の死は問いかける～大槌町“役場被災”9年目の真実～」を放送する。

岩手県大槌町は、中心部が壊滅的な被害を受け、町役場も津波にのみ込まれた。当時の町長や町の職員など40人が亡くなり、その多くが役場庁舎で犠牲となった。あの日津波に襲われるまでの役場の状況を記録しようと、町は去年、生き残った職員らから証言を集め、記録誌を編さんした。さらに町は、「真実を知りたい」という遺族の求めに応えるように、職員たちに聞き取りを行って、亡くなった職員の当時の詳しい状況を調べる「死亡状況調査」をこの冬から始める。

多くの職員らが犠牲になった当時の役場で何が起きていたのか、NHKは、記録誌の編さんで集められた職員の証言をつづった500ページにおよぶ内部記録をもとに取材。さらに、災害対策の陣頭指揮を執る立場にあった当時の幹部職員にもインタビューを進め、あの日々の真実に迫る。

震災から9年、「真実」を伝え、そこから見えてくる「教訓」を語り継ぐことで、新たな一歩を踏み出そうとする町職員や遺族の姿を記録した。

(詳細は報道資料を参照)

(3) 「#もしかしてしんどい?～虐待を考えるキャンペーン特番～」 (正籬副総局長)

去年11月の総局長会見でご紹介した「#もしかして…虐待を考えるキャンペーン」の特集番組として、2月29日に「#もしかしてしんどい?～虐待を考えるキャンペーン特番」を放送する。

虐待の認知件数がおよそ16万件にのぼり、悲しい虐待のニュースが続いている。虐待は冷酷な親だけが犯すのではなく、子どもを愛し必死に育てている親が手をあげるケースもたくさんある。背景にあるのは、多くの親が、誰の助けも得られない環境の中で、子育ての負担を抱え込んでいる現状だ。核家族化が進み、これまで子育てを助けてくれていた“親族ネットワーク”が失われつつある今、親だけで行う子育てが限界にきているのだ。

番組では、子育てで親が追い詰められていく状況を会社の仕事に当てはめ、その心理を描くドラマや、実際に子どもが児童相談所に保護された夫婦のドキュメンタリーを紹介する。また、専業主婦をターゲットにした託児所を取材し、助けを求めることに対する罪悪感があるという親が、どうすれば「助けて」と言えるのかを考える。

キャンペーンの顔である、関ジャニ∞の横山裕さんにMCとしてご出演いただき、家庭で何が起きているのか、虐待を防ぐために何が必要か、このキャンペーンを通して伝えたい最も大事なメッセージとして特集する。この特番のほか、2月はテレビやラジオ、WEBでの情報発信を通して、さまざまな角度から虐待を考えていく。

(詳細は報道資料を参照)

(4) NHKスペシャル「車中生活者 ～人知れず駐車場の片隅で～」 (正籬副総局長)

2月のNHKスペシャルでは、「車中生活者～人知れず駐車場の片隅で～」を放送する。

「車中生活者」とは、道の駅などの駐車場を転々として、文字通り車の中で生活している人たちのこと。番組では、駐車場の片隅で人知れず生活する「車中生活者」の実態に迫る。

NHKが全国の道の駅に取材したところ、車中生活のすえ体を壊し命を落とす事例も、全国で出てきていることもわかってきた。「もはや車中生活者の死を珍しいと思わなくなった」と話す従業員もいる。なぜ車中生活をするのか、取材を進めると、「年金だけでは家賃が払えない」とか「DVから逃れるため」など、深刻な事情を抱えている人がいた。中には、ふとしたきっかけで社会や家族から逃避し「車という逃げ場」に駆け込んだという人もいて、背景はさまざまだ。

その存在は社会の何を反映しているのか?徹底した現場ルポで迫る。

(詳細は報道資料を参照)

(5) 「オルセー美術館」 (鈴木副総局長)

BS4K8Kではフランスの「オルセー美術館」を紹介する番組を、2月2日と8日、2回にわたりお届けする。番組では、それぞれ「太陽」と「月」をキーワードに収蔵品を堪能していただく。

1回目「太陽の手触り」は、モネの「睡蓮」やルノワール「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」など印象派の絵画を中心に、さまざまな絵画に描かれた「光」を集めた。

2回目「月の肌触り」では、閉館後の静かな美術館を舞台に、パリの華やかなナイトライフを描いた作品から、月明かりが照らす夜の気配や、闇の豊かさをとらえた作品まで、幅広く紹介。

画家の息遣いを感じるような筆の跡や、絵の具の鮮やかさなど、8K撮影だからこそ見えるオルセー作品鑑賞の喜びを体感していただく。

(詳細は報道資料を参照)

(6) 「モンダイな条文～世界の“謎ルール”～」 (鈴木副総局長)

総合テレビでは「モンダイな条文～世界の“謎ルール”～」を2月11日にお届けする。

日本人から見ると、世界には驚くような法律やルールが存在する。そうした“条文”の謎をひもとく「新感覚リーガル・バラエティー」。

例えばロシアには「結婚は、1か月待たないと認められない」といった内容の法律がある。こうした条文がなぜ存在するのか？ 実際に世界各国へ赴き、その国の事情や歴史を探り、条文が成立した背景に迫る。司会は、バカリズムさん。ゲストに、田中みな実さん、石原良純さん、ハライチの澤部佑さん。天の声をアンタタッチャブルの山崎弘也さんが務める。

まか不思議な“条文”を通して世界の多様な価値観を知り、人間の営みや社会のあり方を見つめ直す番組。
(詳細は報道資料を参照)

(7) 「サッカーの園～究極のワンプレー～」 (正籬副総局長)

2月21日のJリーグ開幕を前に、サッカーの魅力、奥深さを伝える番組をBS1で2週連続で放送する。元サッカー日本代表の前園真聖さんをMCに迎え、独自の視点で究極のワンプレーを選ぶ番組「サッカーの園」。

パス、ドリブル、シュート…その膨大なプレーの中からひとつのテーマにしぼり、サッカーを知り尽くしたゲストとともに、選手の匠の技やスーパープレーの舞台裏に迫る。

2月8日放送の1回目のテーマは「ラストパス」。スルーパス、クロスボール、ロングフィードなど、さまざまなバリエーションからゴールを演出するビッグプレーの数々を、たっぷりご覧いただく。昨シーズンのJリーグで1試合あたり最も多くのラストパスを出したのは、ヴィッセル神戸のイニエスタ選手。その世界レベルのプレーや、パスの名手、川崎フロンターレの中村憲剛選手の想像力あふれるプレーなどを紹介していく。さらに名プレイヤー、FC琉球の小野伸二選手のインタビューなども交えて、究極のワンプレーに秘められた技の極意に迫る。

2月15日に放送する2回目のテーマは「スーパーセーブ」。一瞬の判断が勝負を左右するゴールキーパーの世界に迫る。昨シーズンのJリーグでシュートセーブ率が最も高かったセレッソ大阪のキム・ジンヒョン選手、ベストイレブンに選ばれたFC東京の林彰洋選手のプレーのほか、日本代表でチームの窮地を幾度となく救った川口能活さんのインタビューなども紹介し、スーパーセーブの舞台裏を浮き彫りにする。

MCの前園さんのほか、ゲストには名波浩さん、中澤佑二さんなどが登場。出演者のみなさんと一緒に、サッカーの奥深さを見つめていく。

(詳細は報道資料を参照)